

【全体概要】

中山間地の農地を守るために、大台町ではエゴマの栽培振興に取り組んでいる。エゴマは獣害に強く、また健康志向から高付加価値が見込める作物として、平成27年度からJA女性部生産者グループ「奥伊勢えごま倶楽部」会員が中心となり栽培を開始し、平成29年度には、地域内に新たな搾油施設を整備、生産から搾油、販売に至る6次産業化に向けての取り組みを進めている。今後、中山間地農業のモデルとして、栽培技術向上により農業生産の安定化とブランド力向上を図り、農業経営安定による取り組み継続へと繋げる。

新品種・新技術等の概要

中山間地の限られた耕地面積での、単収の向上の手段として、当地での環境に適応し、安定的に増収できる摘芯技術の確立を目指す。

また多発拡大傾向にある、青枯病の防除対策確立のため、転炉スラグ投入による土壌改良効果を確認する実証圃を設置する。

さらに将来にわたり、優良更新種子の安定確保を図るため、採種試験圃を設置し課題を整理する。



実証圃の設置および調査活動

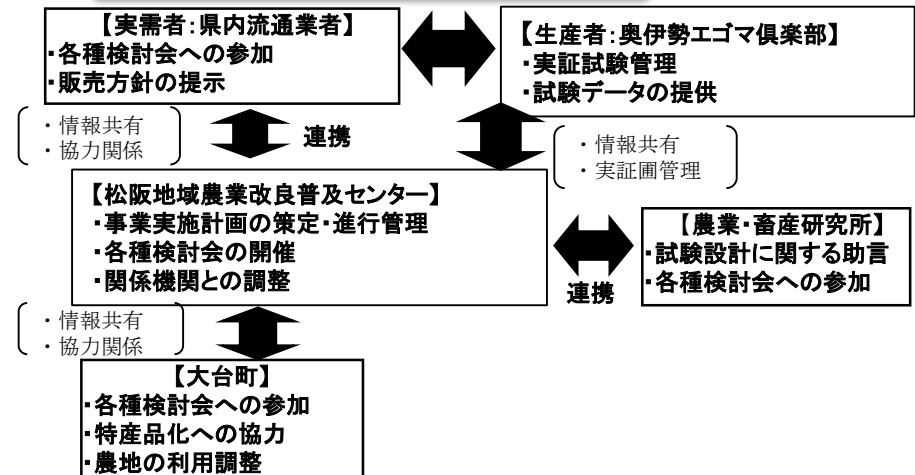
左: 生育調査と、摘芯作業

中右: 青枯病対策実証圃の設置

主な取組内容

- 栽培管理上の課題解決のために、以下の栽培実証圃を設置した。
 - ・ 強摘芯(2回摘芯実施)による、生育(草高、花数)差と増収効果の確認。
 - ・ 土壌酸度矯正による、青枯病抑制効果の確認。
 - ・ 採種圃場を設置し、収穫種子より搾油した油の品質を確認した。
- 栽培マニュアルを改訂し、上記実証圃における検証結果を反映した。
- 上記試験結果の検討と意見交換を関係機関と実需者間で実施した。
- 上記結果の生産者に向けた情報共有をおこなった。

実施体制図



課題と今後の対応

【実績】

- ・ 種子の収穫量と搾油量については、2回摘芯区の方が上回っており、強摘芯実施による種子収量や搾油量増加が確認された。
- ・ 土壌pH矯正による、青枯病抑制効果が確認された。
- ・ 自家採種圃場採種種子と購入種子との発芽率や搾油品質が、同等以上であることが確認された。

【今後の課題・展開】

- ・ 摘芯方法については、生産者への共有により、単収増を図る。
- ・ 土壌pH矯正による青枯病抑制効果については、次年度以降も農業研究所の協力により、実証圃数を拡大し、効果を検証する。
- ・ 採種圃場を設置し、更新種子の安定供給を図る。